

# 探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算  
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

## 効果報告レポート

【事業者名】

信濃毎日新聞株式会社

【サービス名称】

シンマイEGG

【サービスの支援項目】

カテゴリー1 探究的な学びの高度化 メインサービス



2026年1月

# ■ 探究・校務改革支援サービスの概要

## 1. サービスの概要・特徴

信濃毎日新聞社が開発・提供する小中学校・高校向けの学習支援サイト。①ふりがな付き記事コンテンツ②過去約30年分の記事を閲覧可能なデータベース③新聞づくりアプリなどをワンパッケージで提供。紙の新聞を1クラスに1部配達（平日のみ）するサービスも付帯する。

### (1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

子どもたちの興味関心を広げ、「知って」「考えて」「表現できる」サイト。

地方紙ならではの地元地域の“今”の情報や膨大な記事アーカイブを自由度高く利用できる環境の構築で、子どもたちにとっての「身近な話題」で学びを深められる。またデジタルとアナログ（紙）を融合したサービスにより、デジタルで深く調べ、紙の紙面で幅広い情報に触れる機会を創出する。

### (2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

探究学習の「課題設定」「情報収集」「まとめ・表現」等の活動の質を底上げする。

地域やニュースへの関心の高まり、読解力等の基礎学力の向上等も見込める。

### (3) サービスの活用場面

探究や社会科、国語をはじめとする授業時間のほか学活、宿題等の幅広い学習シーンで24時間利用が可能。

### (4) 1サービスあたりの標準販売価格

①児童生徒1アカウント当たり990円（年額、税込み） + ②1校ごとの学校基本料金2万6400円（同）

※利用料に通信費は含まれません

## 2. サポート内容

NIE（Newspaper in Education、新聞を学校で活用する活動）の普及、現場支援に長年取り組む信濃毎日新聞担当部署（読者センター）が活用をサポートする。導入校の活用事例も各種媒体で幅広く共有する。

# ■ 探究・校務改革支援サービスの概要

## ■ シンマイEGGを構成する各コンテンツ

### 地域ニュース

- 県内各地域の身近な厳選ニュースを配信
- ふりがなのオンオフ機能搭載で漢字が苦手な子も安心



### 記事データベース

- キーワード検索のほか設定済みの注目ワードからの検索も
- PDFで実物の紙面も表示



### 新聞作りアプリ

- 複数のテンプレートから新聞紙面を簡単作成
- グループ編集や先生アカウントからの修正もできる



### 仕事と会社

- 地元企業の仕事やそこで働く人を柔らかく紹介
- 会社見学や職場体験の可否の補足情報も掲載



### 【その他のコンテンツ】

- ◆ 「学習シート」  
 記事を題材にしたワークシート
- ◆ 「動画・写真」  
 新聞作りのポイント解説、四季折々の写真ニュースなどの動画・写真コンテンツ
- ◆ 「こと映え」  
 ことわざや四字熟語と愛らしい生物の写真のセット

など

ネット上の情報の信頼性や地域情報の不足、国語力低下などが課題。信頼度の高い地元記事等を幅広く活用できる環境を整え、探究活動や表現活動の質の向上、負担感の低減、読解力などの基礎的素養の向上に役立てられる。

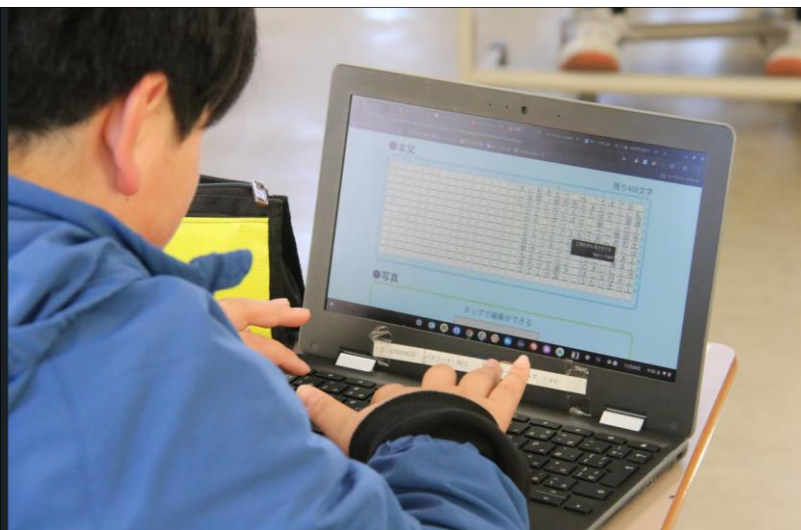
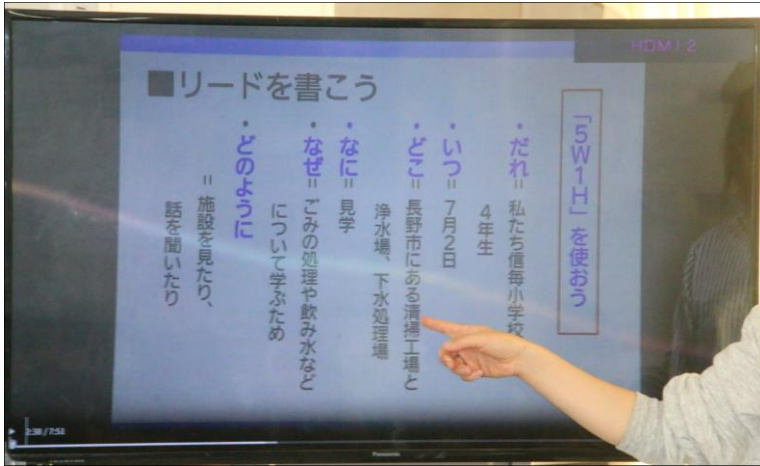
### 児童生徒・教職員が抱える課題

- GIGAスクール構想でデジタル環境が整っても、ネット上の情報は玉石混交のため調べ活動では使いづらい。特に地域のことを知るオンラインツールは不足している。
- 探究に必要な基礎的素養となる国語力が落ちている。本当の意味での国語力を子どもたちに身に付けさせる方法を模索している。
- 教科書の知識を身近な地域の話題に引きつけ、理解を促進したい。地域に対する関心も高めたい。
- 手書きの新聞作りではミスがあった場合の書き直し等の負担感が大きく、投げ出してしまうケースもある。

### サービスが果たす役割

- 取材を基にした信頼度の高い記事・情報の検索ツールをいつでも利用可能な形で児童生徒に提供することで、調べ学習等の質を底上げする。地域の情報が手厚い地方紙の記事に日常的に触れられる環境を整え、地元への興味関心を広げる。
- 実用文の新聞記事ベースの情報、文体に日常的に触れることで、読解力を底上げする。また探究活動における4要素のうち「課題設定」「情報の収集」「まとめ・表現」を支援する。
- サイト上で新聞作りが完結する機能を備えており、書き直しが容易。レイアウトや手書きが苦手な生徒の負担感を減らせる。

## サービスの活用風景・授業の流れ



### 【小諸市坂の上小・5学年】

#### 【社会科／工業を学ぶ学習のまとめでシンマイEGGを活用】

- 前時までに地元企業を社会科見学で訪問
- シンマイEGGの動画コンテンツから記事の書き方の解説動画などを視聴
- シンマイEGGの新聞作りアプリを使い、各児童が社会科見学のまとめとして新聞を制作
- 新聞を書き終えた児童は制作物を印刷し、児童同士で校正チェックや感想を言い合う活動に移行
- 合間には記事データベースを使い、同校児童たちの地域交流活動が取り上げられた記事等を紹介・閲読

#### 【ポイント】

- レイアウト構成や記入、修正の負担感が少ない。児童からは「手で書くのは苦手だけど、これはやりやすい」の声。
- 執筆した紙面はサイト画面上や印刷した紙で共有が可能。赤ペンで互いの紙面を校正するなどの相互交流が容易に展開できる。また進みの遅い児童は、先行する児童の紙面を参考にすることもできる。

#### 【その他の導入校の事例】

- 中学校社会科・人権を学ぶ単元で「ハンセン病」や「同性婚」等のキーワードを教員が提示。記事データベースで調べさせ、実社会において人権が守られているか否か記事を基に考えを深めた。等

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	2教育委員会	学校等教育機関数	13校
--------	--------	----------	-----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	小諸市教育委員会	小諸市立坂の上小学校 他7校	長野県	小学校 中学校	4~6年 1~3年	国語、社会科、総合的な学習の時間ほか
2	東御市教育委員会	東御市立祢津小学校 他4校	長野県	小学校 中学校	4~6年 1~3年	国語、社会科、総合的な学習の時間ほか

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

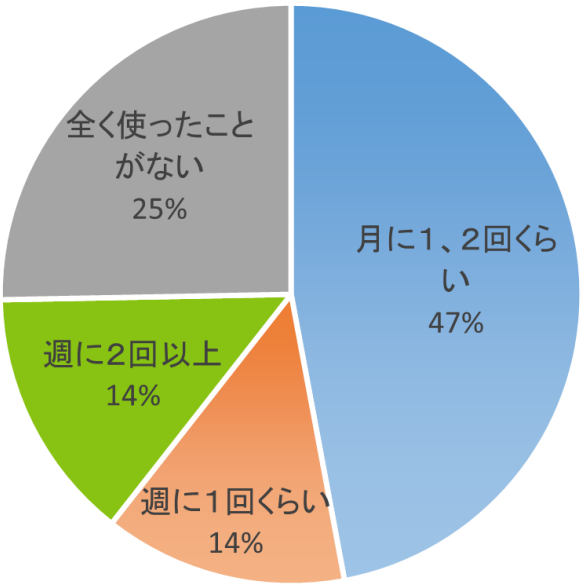
定量的効果検証①

児童生徒回答数:170人

- ・ 導入校の児童生徒へのアンケートを実施した。
- ・ 利用頻度は「月に1、2回」が最多。「全く使ったことがない」も4分の1を占めた。
- ・ 探究学習における4ステップのうち「まとめ・表現」に当たる「新聞作り」での活用が目立った。
- ・ 4ステップのうち「課題設定」や「情報収集」に当たるシーンで、記事データベースやふりがな付きニュースを活用する例も一定数見られた。
- ・ 「『もっと知りたいこと』をさらに調べる」行動も一定数あり、発展性を持った探究的な活動での使用例も見受けられる。

具体的活用方法の内訳

利用頻度



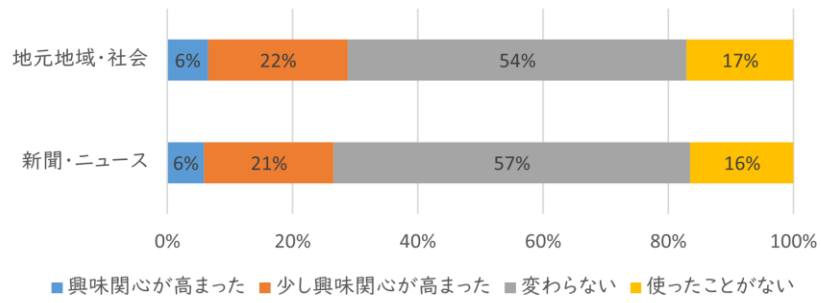
■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証②

児童生徒回答数：170人

■ シンマイEGGは、探究活動の基盤となる児童生徒の興味関心の幅を広げ、主体的に課題を解決していくための思考や表現の資質を底上げすることを目的の一つとしている。そこで、サービス導入後の児童生徒自身の興味関心の変化や、読む力・書く力・考える力の変化の認識について尋ね、スコア化。EGGの利用頻度についての回答と併せてクロス分析した。

興味・関心の変化の認識

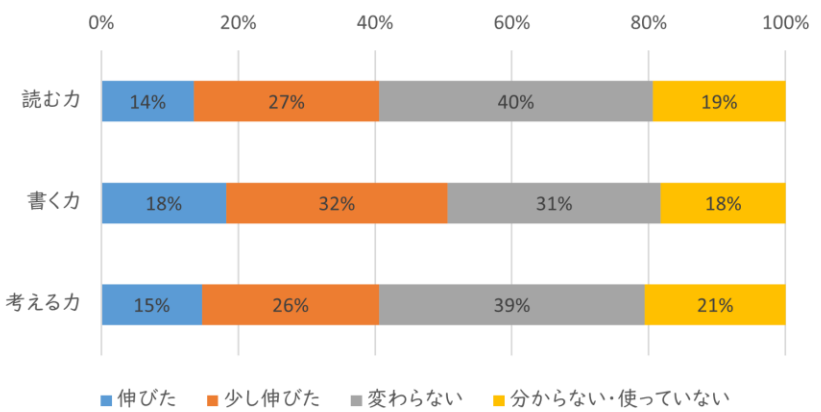


利用頻度別の平均スコア

利用頻度	関心		能力		
	新聞・ニュース	地元地域・社会	読む力	書く力	考える力
全く使ったことがない	1.06	1.25	1.53	1.50	1.50
月に1、2回くらい	1.42	1.44	1.66	1.96	1.71
週に1回くらい	1.65	1.52	1.91	1.91	2.00
週に2回以上	1.26	1.41	1.57	1.65	1.48

※関心や能力の変化に対する認識を1～3点にスコア化し、利用頻度群別の平均点を求めた  
 ※水色が利用頻度群別平均スコアの最低点。赤が最高点

成長の認識



【結果と考察】

- 興味関心の向上自認は「地元地域・社会」「新聞・ニュース」ともに同水準。
- 能力面では、新聞を作る活動が活用シーンの多くを占めたこともあり、「書く力」の変化に肯定的な評価が目立った。
- スコア分析では利用頻度が増えるほど関心や能力向上の認識が高まる傾向が概ね見られた。
- 一方で「週2回以上」の利用は全項目で「週1回」利用者のスコアを下回った。要因として、①「週2回以上」のサンプル数の少なさ(n=24)等によるブレ②一定以上の利用は効果が頭打ちとなる一可能性等が推定される。

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証③

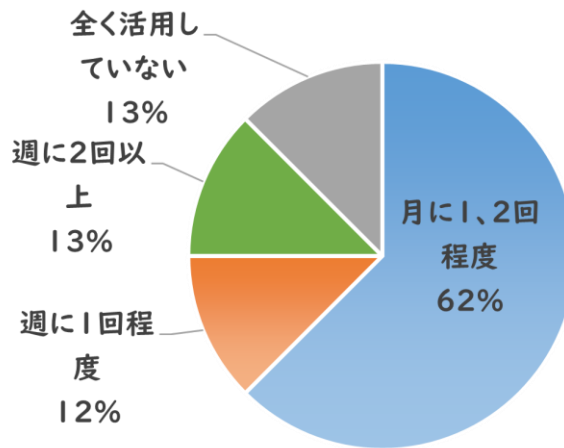
教員回答数:8人

- 教員にもアンケートを実施し、利用頻度や具体的な活用シーン、導入後に見られた児童生徒の変化等について尋ねた。

【結果と考察】

- 利用頻度は児童生徒向けアンケートと同様に「月に1、2回」が最多を占めた。
- 学級活動や社会科、総合、国語などの幅広い場面での活用が見られた。
- サンプル数が少なく参考程度だが、ニュースや地元地域、社会課題への関心の高まりを多くの教員が実感。
- 「自分から情報を探す姿勢が強まった」との回答も複数あり、児童生徒の主体性を育むことにつながる可能性もうかがえる。

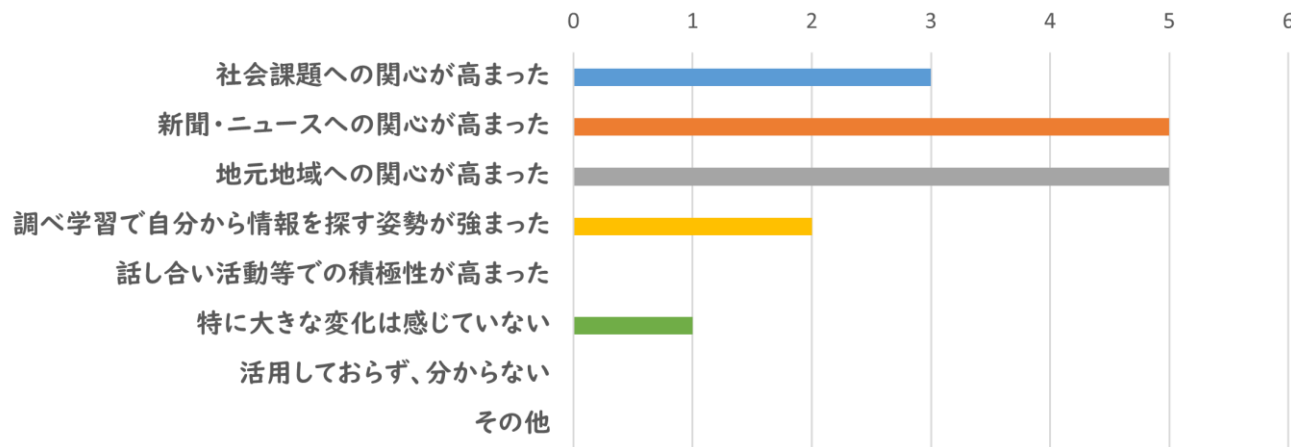
利用頻度



活用シーン



シンマイEGG導入後の児童生徒の態度・関心の変化



## 定性的効果検証

### ■ 児童生徒向けアンケート等では以下の感想が寄せられた

- ・ 「自分が住んでいる地域のことを知るのが楽しい」
- ・ 「ニュースや新聞は二ヶ月に1回くらいだったけど今は毎日ニュースを見るようになった」
- ・ 「家族とニュースの話をよくするようになった」
- ・ 「毎日のように朝や夜のニュース見るようになった。学校で地震のニュースや火災のニュースを話したりしている」
- ・ 「新聞でニュースなどがわかるようになった」
- ・ 「文章を読む力がついた」「文章を書く力がついた」

### ■ 教員向けアンケート等では以下の感想が寄せられた

- ・ 「自分から興味のある分野、話題の記事を調べている子もいる。教員側も地域のことを紹介するのが楽」
- ・ 「学習シート(記事を題材にしたワークシート)を継続することで読む力、文章をまとめる力が向上してきた感触がある」
- ・ 「新聞作りの際に、子ども達でも新聞が作りやすくなった」
- ・ 「印刷、添削の手間が減った」
- ・ 「同じテーマでの複数の記事の発見が楽にできるようになった」

### 【補足・考察】

- 児童生徒向けアンケートでは単に新聞やニュースへの関心の高まり、閲読習慣にとどまらず、家族や級友との情報共有、コミュニケーション面の変化にもつながっている点に注目したい。先行研究では、子どもが両親やその他さまざまな人と社会について話す行為が「考える力」に対する自信の向上につながると指摘されており\*、EGGの活用によってその点に貢献できる可能性もうかがえる。
- 教員向けアンケートでも関心の広がりや各能力の向上に役立てられるとの捉え方が多数あった。活用を継続することによって「伸びる可能性を感じる」との回答も多かった。
- 業務負担の改善や効率化につながったとの声も複数あった。

\*坂巻文彩ほか(2023)「『新聞を読む習慣による学力向上』を巡る計量分析(2)」『九州大学教育社会学研究集録』第26号, pp.1-15.  
(九州大学学術情報リポジトリより:[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac\\_detail\\_md/?bibid=7162229](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_detail_md/?bibid=7162229)) アクセス日:2026年1月6日

## ■ 探究・校務改革支援サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

### ■ 児童生徒の感想（「定性的効果検証」掲載分以外／アンケート・対面ヒアリング結果を含む）

- 普段は新聞記事を読んでいなかったけれど自分が知らなかった大事なことが書かれていると感じた。
- 気になって地元の観光地やスポーツ系の話題（の記事）を調べる。面白いし、「こと映え」もかわいい。
- （新聞作りアプリは）喋るくらいの早さできれいに書けるのがよかった。
- 新聞づくりがめっちゃやりやすかった。手書きよりも2倍くらいの早さで書ける。
- 新聞がこんなに簡単に作れて便利だった。他の人の新聞も見られたから勉強になった。
- （新聞作りアプリが）フリーズしてよく使えなかった。
- 新聞を作るときにデータが消えてしまう事があった。

### ■ 教員の感想（同）

- 今の子ども達は新聞に触れる機会が少なく、すごくありがたい。
- （記事データベースで）検索して記事を開くと、生徒が入力したキーワードが赤く表示される。その周囲に重要な情報があり、読み取りがしやすい。
- 記事をプリントアウトして配る時に「切抜」機能（当該記事のみを切り出した紙面イメージ）が使いやすい。
- 記事を通して生徒が（さまざまな当事者の体験を）追体験をできるのがいい。
- 例えば総合で「ゴミ問題」を調べる際に「世の中のゴミ問題にはどういったものがあるのか？」を調べるのに使えると感じた。
- 新聞作りアプリはレイアウトが完成されているのが子どもにとってやりやすい。修正も容易で途中で投げ出しづらい。
- 新聞作りアプリを使用して学習のまとめをしようとしたが、不具合が多く、途中で使うのを断念した。とても良いソフトなだけに、非常に残念。
- 新聞作りアプリを使ったが、フリーズしてしまい、使いにくかった。

本補助金事業を通して直面した課題は大きく「現場理解の浸透」「利用の偏り」「不具合」が挙げられる。

対面・非対面双方の理解促進策の充実、適切な内容・時期の活用提案、早急な障害対応・UIの改良検討を進める。

### 直面した課題

1. 本補助金事業によるシンマイEGGサービスの導入は全て教育委員会を通して行われたが、補助金の趣旨やサービス自体を学校現場で理解してもらうのに時間がかかり、全教員に共有しきれないことがある。
2. 学校によって活用の程度にはばらつきが見られた。コンテンツ・機能別でも、最も使い道が想定しやすい「新聞作りアプリ」に利用が偏る傾向があった。記事データベース等のその他コンテンツについては、学習活動への具体的な組み込み方を教員がイメージしづらいことが想定される。
3. 「新聞作りアプリ」ではフリーズやデータの消失などの複数の不具合報告が挙がった。

### 解決するための改善策

1. 導入した学校全校を訪問し、実地の説明会を行った。今後、使い方や活用法等を紹介する動画コンテンツ等の作成も検討する。
2. 新聞を使った学びの活用事例としてシンマイEGG利用校の実践例のほか、日本新聞協会が運用するサイト「新聞を活用した教育実践データベース」なども紹介・提案し、幅広い活用方法の提供に努めた。また、実践例や機能を紹介する定期刊行物の発行も始めた。今後、標準的な年間指導計画を意識し、各教科・単元の実施される時期を見計らい適切なタイミングで活用事例の提案をする等の工夫を進めていきたい。
3. フリーズ等は通信回線の影響も想定されるが、重大障害と認識しており、ベンダーとともに至急解消を図った。データ消失は一部に正常な作業手順を踏まなかった結果を含む可能性もあり、より適切なUIの改良等も検討する。

## ■会社概要

社名	信濃毎日新聞株式会社
代表	小坂 壮太郎
設立年月	1894年2月(創刊1873年7月)
本社	長野県長野市大字南長野南県町657
資本金等	資本金1億円
売上高等	売上高162億4千万円(2024年12月期) 経常利益14億8600万円(同)
従業員数	438人(26年1月1日現在)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>• 日刊紙「信濃毎日新聞」の発行及び「信濃毎日新聞デジタル」の発信</li><li>• 新聞媒体を活かしたマーケティング、プロモーション、ブランディングの提案</li><li>• 文化、芸術、スポーツイベントの企画・運営</li><li>• 書籍の出版、販売</li></ul> 等

## ■お問い合わせ窓口

担当:読者センター内 シンマイEGG事務局

電話:026-235-3215

Mail:egg@shinmai.co.jp